

(案)

## 令和3年度 第1回阿賀町地域公共交通活性化協議会 議事録(要旨)

- 1 開催日時 令和3年7月12日(月) 午前10時から
- 2 開催場所 阿賀町公民館 講堂
- 3 出席者 24名(出欠状況は別紙委員名簿のとおり)
- 4 議 題
  - (1) 阿賀町地域公共交通活性化協議会規約の一部改定について
  - (2) 令和2年度事業報告及び決算報告について
  - (3) 東川デマンドバスについて
  - (4) まちなか循環バスについて
- 5 協議結果 議題(1)、(2)、(3)、(4)について承認された。

### 6 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) 会長(阿賀町長)挨拶

会 長： 本日はご多忙のところ、ご出席賜り感謝申し上げます。コロナ禍が1年半ほど続いており、公共交通事業者を始め、全ての皆さんからご苦労いただいていると思います。阿賀町は一昨日で、ワクチン接種を希望する65歳以上の皆さんからほぼ接種を終えた状況となっており、それ以外の方も、9月初旬には接種を終える計画となっています。当町では高齢化が進んでいる中で、公共交通の重要性が高まっています。今日は長岡技術科学大学の佐野先生をはじめ、それぞれの関係の皆様からご出席をいただきありがとうございますので、忌憚のないご意見をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

#### (3) 委員紹介

#### (4) 議題

##### 【議題(1) 阿賀町地域公共交通活性化協議会規約の一部改定について】

(資料1に基づき、事務局が議題(1)について説明)

(意見・質問等はなく、議題(1)は原案のとおり承認)

##### 【議題(2) 令和2年度事業報告及び決算報告について】

(資料2～5に基づき、事務局が議題(2)について説明)

副会長： 各バスの利用状況の報告では、もう少し細かいデータがあるとよい。例えばコミュニティバスの利用状況では、学生との混乗の便もあるが、学生が何名、一般が何名とか、利用している人がどんな人が分かるとよい。また、人数だけでなく、バス運行のためにどのくらい費用がかかったかも重要である。例えば、三川駅～赤谷コミュニティワゴンでは、およそ600万円の費用が掛かっているのに対し、300人強の利用者であり、1人当たり約2万円の費用が掛かっている。高速バスについては、町単独で運行しているようだが、五泉市との共同や、JRの活用を前提として駅までの交通手段の確保や、新潟駅を降りてからのタクシー補助を検討してもよいのではないか。

事務局： 学生と一般と一緒に乗車している混乗便について、利用状況に記載している利用者数には、毎日乗っているスクールバス利用者の人数は含まれておらず、一般利用者のみとなっている。また、それ以外のご指摘については、今後の事務局の資料作成等に生かしていきたいと思えます。

(以上の質疑後に、議題(2)は原案のとおり承認)

### 【議題(3) 東川デマンドバスについて】

副会長： 例えば東川行きであれば、清川から上川支所までは、乗車のみで降車ができないとなっていますが、その理由を教えてください。

事務局： 上川支所までは、10月以降も路線バス・室谷線が継続して運行する。10月以降廃止となる路線バス・丸淵線、粟瀬線のみが運行している運行エリア図の黄色エリアは乗降可能とし、室谷線が運行する上川支所から津川地域までの青色のエリアの方は、路線バスを利用させていただきたいと考えている。

副会長： 路線バスの運行本数はどれくらいか。

事務局： 当該エリアを運行する路線バスは、室谷線と広瀬線という2系統があり、合わせて1日12便6往復を運行している。

副会長： 路線バスの客を奪ってしまうということも理解するが、路線バス6往復と東川予約制バス4往復、併せて10往復が運行することになるので、予約制バスも自由に乗れるようになれば、より便利になるのではないか。

事務局： 補足をさせていただくと、東川予約制バスの運行時間帯は、JRとの接続も考慮しており、路線バスとほぼ同時帯の運行となっている。また、車両は10人乗りのワゴン車を予定しており、乗り切れないケースも想定し、今回のような乗降エリアとさせていただいた。

佐久間委員： 東川予約制バスは、見た目としてラッピング等の他の車両との差別化を図る予定はあるか。

事務局： 現在車両を準備している段階であるが、運行主体のNPOと相談し、一目で視認できるようなマグネットシートをデザインし、車両に取り付ける

ことを予定している。

会 長： 本バスは実証実験ですので、委員の皆さんから頂いた意見を今後の運行に生かして取り組んでいく。先日、隣接している西会津町が企業と協力してA I運行の実証実験を行うというニュースを耳にした。そのような先進地の事例、住民の声、財政的な見地も考慮して進めていきたい。

(以上の質疑後に、議題(3)は原案のとおり承認)

#### 【議題(4) まちなか循環バスについて】

佐久間委員： 初めて乗る町外者などは、どこで降りればよいか等不安を感じるケースもある。スクールバスの空き時間を活用とのことだが、降車ボタンのような設備はついているか？

事務局： 活用を予定しているスクールバス車両には、現段階で降車ボタンのような設備は設置されておらず、今回の実証運行中の設置は難しい状況ですが、今後利用者の声等も聞きながら検討していきたい。

副会長： 資料7-2のような活用方法例は住民の方には非常に役に立つと思う。実証運行中は運賃を無料とするようですが、本格運行の際はどのように対応するか？

事務局： 町内にスクールバスの空き時間を活用した無料のバスは、福祉バスも含め現在多く運行している。そのようなバスとの整合性も含め、本格運行の際には有償、無償の判断をしていきたいと考えている。

会 長： 有償運行にするか、無償運行にするかは重要な問題である。町の財政状況や利用者負担の原則を考えれば、有償という考え方もあるが、一方で有償運行とした場合に、設備の面などで必要な経費も生じてくる。それらも踏まえて、皆さんからご指導を頂きながら検討していきたい。

また、町の診療所では薬局が併設されておらず、受診した後に薬を受け取りに行く交通手段が少なく、大きな課題となっている。示した路線図では、薬局が赤字で記載されているが、住民の皆さんにこの循環バスの活用方法をわかりやすく伝えることが重要と考えている。

伊藤委員： 循環バスの導入で利用者は便利になると思うが、私どもタクシー事業者は、路線バスや循環バスの停留所まで歩けない高齢者の生活の足を担っている。停留所まで来られない人たちに、タクシーを利用してもらえるようなタクシー券や補助をするような制度が無いとタクシー業界も厳しい状況である。

会 長： 高齢化が進む中、タクシーには、自宅から目的地まで直接人を運ぶことができる公共交通として大きな役割を担っていただいている。一方、町で住民の利便性を高める新たな運行を導入していけば、タクシーの利用に大きな影響を与えることは町も認識している。自宅前まで送り届けてくれるタクシーは欠かす事の出来ない重要な交通手段である。高齢化が進む阿賀

町では、停留所まで歩くことができない住民の移動手段をきめ細かく考え、財政的な面を考慮しながら、タクシーを利用しやすくなるような施策を検討していきたい。

渡辺委員： 会長の話にもあったが、利用する方にいかにわかりやすく伝えられるかが重要だと感じた。資料 7-2 にあるように、使い方を分かり易く示すことで、公共交通を利用するというだけでなく、住民の積極的な外出につながっていくことが大切である。その中で、バスやタクシーの利用がさらにつながるなど、相乗効果が生まれていくのではないか。

会 長： 町民の方々の理解と利用につながるよう、また事業者の皆様のご意見に参考にして事業を進めていきたい。

**(以上の質疑後に、議題(4)は原案のとおり承認)**

## (5) その他

佐久間委員： ワクチン接種の加速化により、全国的に大規模接種やワクチン接種が進められているが、県内では、長岡市や小千谷市において、大規模接種会場で予約のキャンセルがあった場合、タクシー運転手が代替に摂取をするなど早期の摂取が可能となった報道がありました。ご存じのとおり、公共交通事業者はコロナ禍でも国民の生活を守るエッセンシャルワーカーとして、日夜業務に励んでいただいている。医療従事者と同じように、不特定多数の方と接触により感染リスクを抱えており、ワクチン接種は安心して業務に取り組める状況と、感染拡大防止につながると考えている。

阿賀町においては、ワクチン接種が早期に進んでいるということはお聞きしたところが、バスやタクシーの運転手など公共交通事業者への早期のワクチン接種についてもご配慮願いたい。

会 長： 阿賀町では 65 歳以上の摂取をほぼ終えており、64 才以下も 3 分の 1 の方は 1 回目の摂取を終え、ワクチンはすでに全数を確保している。運転業務がある中で、副反応の状況も確認しながらとなると思うが、いつでも予約いただける状況であるのでよろしく願います。

## (6) 閉会